

「人材育成WG報告書中間とりまとめ（案）」に対する意見

[氏名]	(企業・団体の場合は、企業・団体名、部署名及び担当者名) 一般社団法人 情報サービス産業協会 広報サービス部 手計将美
[住所]	〒104-0028 東京都中央区八重洲 2-8-1 日東紡ビル 9 階
[電話番号]	03-6214-1121
[FAX番号]	03-6214-1123
[電子メールアドレス]	
[意見1]	<p>(1) 該当箇所(どの部分についての意見か、該当箇所が分かるように明記して下さい。) 中間とりまとめ(案)の4部構成</p> <p>(2) 意見内容 3頁「はじめに」では、3つの視点で検討を進めた旨が記載されており、4部はそれぞれ独立した報告として取りまとめられたと認識しております。 しかしながら、第1部「次世代高度IT人材」では既存人材とは異なる人材と整理しているのに対し、第3部「今後の階層別の人材育成」では中高年技術者の目指すべき方向として記載しています。また第2部情報セキュリティ人材については、第4部情報処理技術者試験の見直しと関連するなど、各部間の位置づけが不明確です。 第1部の前に総論を追加し、4部それぞれの論点と結論、各部の関係性を明確にした上で主要な施策について数年の行程表を示す等の内容を記載すべきと考えます。</p> <p>(3) 理由(可能であれば、根拠となる出典等を添付又は併記して下さい。) 第1部冒頭では、社会全体の環境認識として産業構造、就業構造の変化、また、情報サービス(IT)業界の環境認識として、需要成熟化と供給者の高齢化がそれぞれ課題として挙げられています。一方で、今後の社会がITに対して他産業との融合を含む、従来とは異質な、且つより高度な供給力を期待している、というのが本報告の大きな問題提起と考えます。 その中で、社会が要請する高度IT人材供給のため、第1部、第2部、第3部がそれぞれ、何を担う人材について述べられているのかといった整理、また第4部を含めて、それぞれが、どのように関連するのかといった点を分かり易く記載することが業界各社の理解促進につながると考えます。</p>
[意見2]	<p>(1) 該当箇所(どの部分についての意見か、該当箇所が分かるように明記して下さい。)</p> <ul style="list-style-type: none">・P8 (2) 次世代高度IT人材像の職種・p10 (3) 次世代高度IT人材像の定義と役割・p21 4~7行目「育成対象」及び(4) 次世代高度IT人材の育成の指針

(2) 意見内容

創出プロセスとタスク(p6)から定義された6つの職種(p8)のうち、次世代高度ITとして位置づけられるのは、「プロデューサー」であり、他の役割は、プロデューサーを支援する役割あるいは人材(フォロアー)として位置づける整理が必要と考えます。

従って、人材育成の対象は、これらフォロアーの育成であり、スキル・知識にこだわらず、プロデューサーに至る中長期的なキャリア形成の視点での整理が必要です。なお、プロデューサーについては、発掘・確保の視点を重視する必要があると考えます。

(3) 理由(可能であれば、根拠となる出典等を添付又は併記して下さい。)

JISAにおいても、「創造的改革を推進する人材と発掘・確保に関する提言」をまとめる中で、改革推進人材(ハイブリッド型人材)を定義しており、実践的な「知見」と「創造」を重視する基本的な考え方において、次世代高度IT人材と共通しており、プロデューサーの役割が特に重要と認識しております。

また、改革推進人材(プロデューサーにおいても同様)に求められる役割と機能において、必ずしも育成過程から産み出されるのではなく、むしろ、その素養や資質を重視し、発掘・選抜するものと考えております。加えて、標準的な人材発掘プロセスを提示するのは難しいことから、原則業界各社の取組を重視し、「企業による発掘・選抜、コミュニティでの切磋琢磨、コミュニティもしくは第三者による評価・認定、認定された者による実践、課題解決や創造」といった一連のプロセスにより、業界として改革推進人材が活躍できる環境整備に取り組む予定です。

なお、それを支える人材の育成施策については、大学講師ネットワーク、JISA版インターンシップ等の施策を検討しております。